

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀大学教育学部附属中学校
1 前年度 評価結果の概要	・「学力の向上」について、研究3年目である「社会で生きて働く資質・能力の育成」や「質の高い深い学び」の実現に向けて、一定の成果は残せた。また、ICTの利活用については、教員によるICT機器を効果的に活用することができた。生徒は授業や実行委員会、学校行事で端末の使用が日常になってきており、自分の考えを表現することや情報を処理することに更なる向上を望んでいる。生徒たちの求めるより高い処理力・表現力の域に達するように、教員のICTを活用できる能力を高めるための研修等を行っていきたい。 ・「健康・体づくり」について、健康増進や体力づくりなど意識は高いものの、中学3年生は受験期ということもあり、運動する習慣が少なかった。中学1、2年生も決して高い値ではないため、体育の授業や部活動の指導の中で、運動と体力の関係、健康との関係について理解を促し、習慣化へとつなげたい。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」について、コロナ禍のときには、縮小されていた学校行事が再開され、それぞれの活動時間が長くなったことが要員である。時間外の勤務時間については昨年に比べて減少しているが、教職員個人の意識としては業務改善の更なる見直しが必要だと考える。校務分掌や学校行事の見直しや業務の分担をしていき、教員の健康面・精神面の負担を減らすだけではなく、教育の質も確保していく必要がある。 ・他は全体的に達成できており、成果が見られた。新研究に向けて研究を進めていくことはもちろん、令和8年度の部活動の停止に向けた取組や制服の見直し、学校行事の精選など引き続き継続して行っていく。

2 学校教育目標	本校の使命に応じて、高いレベルで自律し、共同することができる次世代リーダーを育成する
----------	--

3 本年度の重点目標	① 未来をひらく共創する学び手の育成を目指す。 ② 学校教育全体を通して、命や人権を大切にする指導を行い、生徒の心と人権感覚の育成を目指す。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	◎様々な学びの場で、生徒自ら目標を設定し、行動し、振り返るAARサイクルを回す手立てをとることによる、エージェンシーの育成。	○指導計画に基づき、授業実践を行うとともに、適切な評価により得られた結果などを次期計画の修正に生かす教員85% ○学校での学習が、学習意欲の向上、学ぶ意味や価値の充実に繋がっていると考える生徒85% ○課題に対して、目標を設定して取り組み、自らの取り組みについて振り返ることができている生徒80%	・各教科等における探究的な学びの在り方の追究 ・単元や題材を通して、生徒自身が見通しをもち、取り組み、振り返ることができる学習過程の検討及び実践 ・課題設定や話し合いの場の機能、振り返り、評価方法等の工夫 ・各教科における単元または年間指導計画の見直し ・課題解決へのアプローチの明確化及び他者との協働による最善解の追究
	◎ICT利活用を通じて、個に応じた指導方法、学習時間、教材等を豊かで柔軟に提供する。	○各教科等の授業において、計画的にICT機器を活用した授業で、個に応じた指導を実践できる教員90% ○ICT機器を活用した学習において、考える力が高まったと感じる生徒90% ○生徒用パソコンを利用することで情報を処理したり、表現したりする力が高まったと感じる生徒90%	・教科固有の見方・考え方を働かせるために、ICT機器を効果的に活用する学習指導の実践 ・生徒用パソコンでの教材の提示を工夫し、個に応じた学びの場の設定 ・課題に対して考えを深める場面で、協働的な学びの場の設定 ・探究的な学びにおいて、情報を適切に処理したり、表現したりする力を高める指導の工夫
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒85%以上	・各教科の授業で、お互いが認め合えるような場の設定 ・学年職員のローテーションにより、組織的かつ計画的な道徳教育の実施 ・人権週間において、命や人権について考える機会を設置 ・夏季に人権・同和教育に関する職員研修を実施
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止など(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的に対応ができていると回答した教員、生徒ともに85%以上	・心の扉(月1回)、いじめ実態調査(年3回)、教育相談等による生徒の状況の把握 ・生徒主体学活による人権学習の実施、生徒会と連携し、いじめゼロ宣言を活用するなどして、いじめを許さない心の育成
	○エージェンシーを発揮する場としての生徒会活動の充実	○「自分たちの手で学校を創っている」について肯定的に回答した生徒80%以上	・生徒会活動について説明する対面式の設定 ・年2回の生徒総会を開催、自治の意識の醸成 ・生徒と教師が共にAARサイクルを回すことによる共創の姿勢の重視
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○健康・体づくりに運動習慣は大切と考える生徒80%以上 ○授業以外で運動やスポーツを行う時間の合計が、1週間で90分以上の生徒80%以上	・運動習慣形成に関する意識調査 ・運動時間や週当たりの運動頻度の実態調査 ・調査結果と体力の関係を説明し、運動習慣の改善を推奨
	●基本的生活習慣の意識化と定着	○県が実施する「健康に関する意識調査」で、「健康において運動、食事、睡眠は大切」と考える生徒90%以上	・保健室来室時において、生徒自身が生活リズムを見直すなど個別指導の実施 ・長期休業前の保健指導や、学年育友会を通じて家庭への啓発 ・生徒会健康づくり部と連動した啓発活動
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○時間外勤務を削減できるよう努力した職員80%以上。昨年度の時間外勤務の平均時間を下回る。	・退勤時間の掲示、アナウンス ・業務内容精選、見直しのための会議設定 ・勤務間インターバルを導入し、退勤から次の出勤までの休息時間を11時間以上を確保する。 ・R8に向けた課外活動のプレを実施 ・アンケートをデジタル化する
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○教育実習	○実習生の指導技術の向上や達成感を保障する実習指導の充実 ○大学との連携	○教育実習後のアンケートで達成感・充実感があると回答をした実習生80%以上 ○教育実習中の大学教員による視察・指導の達成80%以上	・指導教員による魅力的な教職モデルの垂範 ・実習日誌等を通した、実習生の達成感や成長の様子の確認及び指導・助言 ・大学教員との情報共有
○研究	○エージェンシーを育成するための工夫 ○AARサイクルを取り入れた学習過程の実践 ○生徒が主体となる活動の場の設定	○授業の中で見通しをもったり、個またはグループで課題に対して吟味したり、学習内容や学び方を振り返ったりする時間が確保されていると思う生徒85% ○授業や諸活動を通して、エージェンシーを高めることができた生徒80% ○これからの社会で生きていくために必要となる力を授業や諸活動を通して高めることができた生徒75%以上 ○授業の中で、生徒が見通しをもって課題に取り組んだり、学び方を振り返らせることで、エージェンシーを育成することができた教師85% ○教科の本質を追求する研究を推進した教師90%以上	・エージェンシーを育成する視点に基づくカリキュラムの編成 ・AARサイクルを回すための手立ての追究 ・B-Timeの再検討 ・生徒が主体となる活動のあり方の追究

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育